

おくまんさま

夏号 令和5年7月30日発行 第89号

大祭特集

今回は鹿子踊について先代宮司の調査資料をもとに紹介し、昨年発行した「富本村史(大字湯野沢)」もご参考ください。

村山地方の鹿子踊は舞や道具の様式で大きく西村山、東村山地方の南部グループと北村山地方の北部グループに分けられます。天神湯野沢鹿子踊は北部グループに属しますが、北部グループ内でもそれぞれが細部で他の鹿子踊と異なる特徴を持っています。

例えば湯野沢鹿子踊は鉞を腰に着け、大祭では御幣も着ける(写真)のが特徴です。また鉞打ちの被る陣笠にはかつては天満神社の梅鉢神紋が打ってありました。



村山市には湯野沢のほか稲下、長島、深沢、富並上中原の

各地区に鹿子踊が伝わっていますが、頭、紋、腰に着ける道具はそれぞれ異なっています。他地区の鹿子踊を見る機会があれば、踊だけでなく踊り手の服装にも注意してみてくださいと面白く思います。左の写真は深沢鹿子踊の鹿子です。少しわかりづらいですが腰に御幣を差し、背中に毛皮を付けて鳥の羽を刺しています。



その他山寺参詣の有無、踊の由来等、それぞれの鹿子踊が独特の特徴と歴史を持っています。ご興味のある方は各地区の鹿子踊の歴史を調べてみてはいかがでしょうか。

では、天神湯野沢鹿子踊の奉納記録を紹介します。

○江戸時代 文久・嘉永年間 江戸後期に三〜五回踊られた記録があります。また富並と深沢の鹿子踊が熊野神社大祭に参加したという記録があります。

○明治二年

現在の天満神社拝殿建設を祝って若衆が鹿子踊連中を組織し奉納しました。その時に狛犬を奉納しています。

○明治十五年

熊野神社本殿建立を祝い行われた式年大祭で若衆が鹿子踊を奉納しました。同じ時に稲下鹿子踊も参加しています。

○明治十六年

天満神社大祭が行われ、鹿子踊が奉納されています。

○明治二十七年

小学校新築と海老名徳太郎公徳費建立等を祝い大祭が行われ、鹿子踊が奉納されています。明治三十二年に行列絵馬が長松院に奉納されています。

○明治四十一年

風祭の時に忠魂碑が建立され慰霊祭が行われました。その時鹿子踊が奉納されています。相撲・剣道大会も行われました。

○大正六年

大正天皇の御即位を祝う熊野神社式年大祭が行われ、富本青年会湯野沢支部北分区の人たちが鹿子踊を奉納しました。

○昭和三年

昭和天皇御即位を記念して天満神社大祭が行われました。天満神社に石灯籠が奉納され、鹿子連は山寺に参詣し鉞を授けられています。

○昭和二十三年

新憲法発布を記念し熊野神社大祭が行われ、鹿子踊が奉納されました。

○昭和三十一年

村山市誕生記念祭に参加し、熊野神社にも奉納しています。仙台民族芸能大会にも参加しました。

○昭和三十八年

熊野神社式年大祭で奉納され、山寺参詣も行われました。(写真)



昭和38年8月 熊野神社振興記念

○昭和五十年

天満神社本殿再建遷座大祭が

行われ、山形県伝統芸能大会にも参加しています。

○平成元年

現上皇陛下の御即位を祝い行われた熊野神社式年大祭で奉納されました。大祭後山寺に参詣しています。この時には岩野田植踊も披露されています。

○平成十五年

熊野神社大祭で奉納されました。この時も山寺に参詣し、長瀬でも披露されています。

前回は平成二十五年に奉納され、その時の鹿子踊連中の方々が師匠となって今回の踊り手を指導されています。

◇ 七月の動き

ここからは神社の七月の動きを紹介します。

◇ 茅の輪くぐり

七月二日に楯地区公民館横の駐車場にて茅の輪くぐり式(夏越の大祓)を行いました。大祓詞を奏上し、参列者の皆さんが茅で編ん

だ輪をくぐって心と身体を清め、半年間の罪汚れを人形に移して今年後半を健康に過ごせるようにお祓いしました。



◇ 巫女舞出前事業

七月七日に富本小学校にて、山形の六椏八幡宮雅楽会の伶人さんを講師にお迎えして巫女舞の出前授業を行いました。豊栄舞という舞を見学し、実際に巫女の服を着て講師と踊ってみました。雅楽器を触ってみましたり、日本の伝統文化を体験していただきました。質問もたくさんいただきました。授業を受けていただきました。



◇ 月次祭のご案内

八月の月次祭は八月六日午前十時から熊野神社で行います。暑い中健康に気を付けて過ごせますよう御祈願し、花御札をお渡しします。普段着でおいでください。

玉串料一〇〇〇円



あしがき

早いもので大祭まであと一か月少しとなり、奴や鹿子の練習も熱が入っているとあります。コロナ感染症についてはまだまだ油断できないですが九月までには何とか落ち着いてほしいと願っております。八月に入ればあっという間に大祭となりそうです。健康に気を付けて一歩一歩準備を進めていきます。明治、大正、昭和、そして令和と引き継がれてきた大祭です。表に出る人も、それを支える

人も、皆さんが同じ重要な役割を担っていると思います。この九月に令和の大祭が盛大に行われますように、どうぞご協力をよろしくお願い申し上げます。また神社運営につきましても引き続き変わらぬご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

